



No. 76

鹿私幼 だより

会 報

（一社）鹿児島県私立幼稚園協会

発行人／上原 樹縁 編集／調査広報委員会
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5番6号

（プロパングス会館5階502号室）

TEL099-285-6688 FAX099-285-6689

ホームページ <http://muzoca.net>

E-Mail jimukyoku@muzoca.net

『燃える情熱を 子どもたちの夢に！』 ～処遇改善されるは 子どもである！～

鹿児島県私立幼稚園協会

会長 上 原 樹 縁



子ども・子育て支援新制度が施行され早2年が経過します。私ども私立幼稚園等は、経営面での公定価格や各種加算、特に職員の処遇改善や人材確保等が課題となり、経営面で翻弄される2年間でした。これらは次年度以降にも引き続く課題であります。また、とりわけ新制度の柱の一つである『質の向上』の面から見てみても、課題山積ではないでしょうか。

平成29年度に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針がそれぞれ改訂され、平成30年度には施行されます。まずは、これらの要領等を十分に理解する必要があります。そして、「子どもの最善の利益」を根底から見直し、自園の理念や教育・保育内容の在り方を、あらゆる視点からしっかりと丁寧に見直し、再構築していくことが、『質の向上』に繋がるでしょう。

職員の処遇改善が人材確保等につながるという単なる経営的視点から、「子どもの処遇改善を担保する前提条件」という教育的視点へと確立できるよう、改善・活性

化された好循環な環境整備に取り組んでいきましょう。意欲や情熱を常に持ち、元気で明るい先生方が保育活動に取り組んでこそ、子どもの健全な育ちや成長につながるでしょう。そして、子どもの育ちや成長そのものが保護者や家庭の喜びとなり、幸福に満ちあふれた社会基盤の整備へと繋がっていくことを信じます。

みんなで力を合わせ、『燃える情熱を子どもたちの夢に！』という熱い思いを寄せ合い、ともに育ちあいながら、「良質の教育・保育」を有言実行していきましょう。



教職員の資質向上と教育活動の充実に向けて

教育研究委員長 内 園 良 喜

I 平成 28 年度の活動を振り返って

平成 27 年度 4 月から「子ども・子育て支援新制度」が施行され、2 年目を迎えた。幼稚園、認定こども園等に対する保護者の関心も更に高まり、ますます保育の質の向上が問われるようになっていく。

特に、0・1・2 歳児の教育・保育の充実は大きな課題であり、その視点からも研修内容の工夫・改善を図り、魅力ある充実した研修会が展開できるように努めた。

いずれの研修会も所期の目的は達成できたと思うが、いかに研修の成果を自分の力量として蓄積し日々の保育実践に還元していくか今後の課題である。

1 新規採用教員研修会

第 1 回目を 4 月 5 日（火）に、第 2 回目を 12 月 26 日（月）に実施した。1 回目は 111 名（約 60％）の参加で、研修態度も熱心で緊張の中にも意欲が感じられた。2 回目は 102 名（約 55％）でやや参加者が少なかった。しかし、経験したからこそその感想や意見、悩みなどが出され、充実した研修ができたと思う。「学んだ実技を自分の保育に生かしていきたい」「同じような悩みを抱えていたのでいい話し合いができた」などの感想が多く寄せられた。

2 主任研修会

6 月 2 日（木）、「マリンパレスかごしま」で実施した。主任の役割と課題、職員への指導や職場での人間関係、幼小接続や学校評価等について、講話や体験発表、グループ協議を通して熱心に研修した。本年度は、ほぼ昨年同様の約 64％の参加があり、参加者からは「有意義な研修ができた」「自園に生かしていきたい」などの意見が寄せられた。

3 第 55 回鹿児島県教職員研修大会大隅大会

7 月 21 日（木）～22 日（金）、鹿屋市文化会館を中心にして、全体会と 12 分科会を実施した。1,099 名の教職員が参加し、充実した大会となった。認定こども園においては、勤務シフトの関係で出席率が懸念されたが、各園が工夫してくださる思いで以上に参加者が多かった。なかなか大隅地区の幼稚園等を訪問する機会はないので今回はいろいろな意味でいい研修の機会となった。

4 第 17 回乳幼児教育・保育実践講座

昨年度から講座名を標記のとおりに変更し、8 月 8 日（月）～9 日（火）に、「マリンパレスかごしま」で開催した。教育相談関係だけでなく幅広い分野や幼保連携型認定こ

ども園にも視点を当てるようにし、「子どもとともに生きる保育者」「心おどる造形活動」「子どもの発達と音楽表現」「乳幼児期の健康教育と健康管理」「幼児期における特別支援教育の実践」など 5 つの講座を設定した。本年度の参加者は 106 名で保育者としての資質向上や技能習得に大いに役立ったという感想が多かった。

5 免許状更新講習（選択 6 時間）

本年度も、幼児教育実践講座と抱き合わせて、1 日目の 2 講座をそれに当てて実施した。24 名の受講者があり、講師の適切な指導もあり全員合格した。

6 第 20 回幼稚園教育改善研究会

1 月 27 日（金）～28 日（土）に鹿児島市で開催した。参加者は、92 名で例年より多かった。

1 日目は西南学院大学の門田理世先生の講演・ワークショップがあり、保育の質の向上、園内研修等について研修を深めた。

2 日目は、二人の主任教諭のすばらしい発表と、設置者・園長部会と教諭部会に分かれての研究協議が行われた。教諭部会では時間が足りないほど熱心な協議が行われ、又、設置者・園長部会では労務管理等に関する講師の講話は質疑応答が行われ、いずれも有意義な研修となった。

7 各支部・ブロックごとの研修

各支部・ブロックにおいて、教育研究部員を中心に年間研修計画を立て、経営、教職員の資質向上、県大会のテーマ研究、当面する課題等について研究・実践を推進し、大きな成果を上げており、研修意欲の高さが感じられた。また、それぞれすばらしい講師を依頼しており、その情報交換も行われた。

8 保育教諭等研修会

平成 28 年度も、県男女共同参画課からの委託を受けて、11 月 9 日（水）～10 日（木）に「マリンパレスかごしま」で開催した。研修内容として、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、0・1・2 歳児や 3・4・5 歳児の教育・保育、特別支援教育、感染症対応、実技指導等を設定した。対象者は、県内の公・私立の幼稚園、保育所、認定こども園の保育従事者で、176 名が参加して熱心に研修した。

II 平成 29 年度に向けての計画

平成 27 年 4 月から「子ども・子育て支援新制度」に基づく諸施策が実施され、幼稚園にとっては大きな変革の時期である。社会の要望や変革に柔軟、且つ適切に対応するとともに、これ

まで幼児期の教育を担ってきた教育機関としての誇りを持ち、子どもの目線に立ち、また、子どもの発育・発達を踏まえて、今後も適切な乳幼児教育・保育を進めていかなければならない。そのためには、常に時宜を得た研修態様や研修内容、研修方法となるよう一層の工夫・改善を図っていく必要がある。特に先般、文科省から幼稚園教育要領改定案が公表され、平成30年度からの本格実施を前に研修を深める年度とな

る。また、教職員の資質を高め質の高い保育を実践するための、各園における系統的・効果的な園内研修や学校評価等も促進していく必要がある。

平成29年度は、第56回県教職員研修大会が鹿児島市で開催されることになっており、意義ある大会となるよう、鹿児島市支部と緊密に連携をとり、その円滑な推進・運営に努めていきたい。

政策振興委員会

平成29年度に向けて

政策振興委員長 島谷 精利

すべての子どもに質の高い幼児教育を保証することや子どもたちの最善の利益の実現のため日々設置者・園長先生方は努力されていることと思います。

さて、新制度の下、施設型給付の園に対しては、処遇改善等の様々な加算がなされましたが、私学助成の園では、制度の違いによりなかなか難しい現状です。私学助成の園でも施設型給付園と同様に人材確保が重要な問題となっており教職員の処遇改革の実施は大きな課題となります。

平成28年度は、私学助成と施設型給付という二つの立場で予算の要望や陳情を行いました。平成29年度も様々な形態の施設が混在する中での活動となります。要望先が県だけでなく市町村も対象になります。市町村との要望は各地域の園での交渉となることも多くなると考えられますので、各地域の行政機関との繋がりを深めていただきたいと思います。

皆様のご意見を元に実情に即した活動と前年度同様以上の予算獲得に努力していきたいと思います。

1 これまでの委員会の経緯

(1) 九州地区幼児教育合同会議

九州各県の団体長、行政の担当者、政策委員長の談話で今後の課題について意見交換を行った。

(2) 公明党（国会議員、県議、市議、）

昨年に引き続き公明党との意見交換会が開かれ子ども・子育て新制度についての意見交換を行った。

(3) 自民党友好団体意見交換会（国会議員、県議、鹿児島市議）

子ども・子育て新制度について、私学助成と施設型給付について等の意見交換を行った。

(4) 自民党県議団私学振興調査会幼稚園協会意見交換会

調査会に説明を行い新制度について理解を深めていただいた。

私学助成園に対する処遇改善の実施の補助ができる仕組みの創設を要望した。

人材確保のための給付型の奨学金の創設を要望した。

(5) 県知事への予算要望書提出

例年私立幼稚園の「経常費補助金」への財源措置並びに現在予算化されている項目の補助金について、可能な限りの引き上げと新制度下での変化に対応する予算措置（私学共済に入る認定こども園の保育所部分の保険料の補助等）及び多子世帯への保育料軽減措置をお願いした。

私学助成園に対する処遇改善の実施の補助ができる仕組みの創設を要望した。

人材確保のための給付型の奨学金の創設を要望した。

2 今後の課題

平成28年度からの子ども・子育て新制度のもと、施設型給付園には処遇改善等の各種加算が始まり、制度の違いにより私学助成と施設型給付の園との間に大きな格差が生まれています。

平成29年度も引き続き、県を通じて、ばらつきが起こらないように指導していただくよう要望するとともに、各市町村の担当者に、新制度に公私幼保並びに地域間の格差がないように「負担の平準化」もうたわれている事なども理解して頂けるように努めたいと思います。

また、教職員の処遇改善につきましては、制度上、施設型給付園と私学助成園の処遇改善費用が同額となることは難しいと思いますが、可能な限り近づけるように要望していきたいと思います。

公私幼保並びに地域間の格差が無くなる様に各支部ブロックにおいて近隣の幼稚園や認定こども園・保育所などと連携し情報を共有して、各担当市町村に対し要望して行かなければならないと考えられます。

したがって今後も、支部・ブロック・各園が市町村の担当課との良好な関係を築くことが重要となりますので、そのような関係を結ぶよう努力しなければならない。

活 動 報 告

経営研究委員長 三木 隆朋

今年度の経営研究委員会の主な活動は、以下の通りです。

- ① 県教職員研修大会第 12 分科会において、幼稚園・認定こども園の給与・労働条件など労務に関することの提言
- ② 平成 27 年度の財務状況調査及び分析
- ③ 私立幼稚園教員採用候補者試験の実施
- ④ 県設置者・園長研究協議会において、「新制度時代を切り拓く経営戦略～魅力ある園となるために～」のテーマのもと講演・協議会の開催
- ⑤ 九州地区会及び全国設置者・園長研修大会への参加
- ⑥ 九州合同就職説明会への参加

この中で、財務分析に関しては、平成 27 年度から子ども・子育て支援新制度が始まったことに伴い、各園の状況が変わり、会計の在り方も変化したため、「私学助成園」と「施設型給付園」の 2 部門に分けて実施をしました。初めての試みであったため、いくつかの不具合が生じ、皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。その都度修正をい

たしましたが、今後再検証して、来年度はさらに精度を上げ、私学助成園・施設型給付園ともに、安定した経営に必要な財源確保のデータを出していきたいと思います。

また、今年度は経営研究委員会の中に「経営研究部会」を設置させていただきました。総勢 15 名の優秀な先生方が、各支部から参集してくださっています。この経営研究部会は、全加盟園において喫緊の課題である「人材確保」について協議を重ねております。現在は、鹿児島県合同就職説明会開催に向けての準備や、学生・幼稚園教諭及び保育教諭希望者向けの DVD 作成を企画しています。この事におきましては、皆様のご意見も頂戴したいと存じますので、何かありましたらご連絡をいただければ幸いです。

経営研究委員会は、「すべては子どもたちの健全やかな成長を支える教育機関となるために」という理念のもと、これからも活動していきます。皆様にはご理解を賜り、ご協力のほどを切にお願いする次第であります。

認定こども園委員会

質の向上に資する委員会となるために

認定こども園委員長 輿水 基

平成 27 年 4 月より子ども・子育て支援新制度が始まり、いわゆる「新制度」はもはや新しいものではなくなってきました。この制度のねらいは何だったのかと今更ながらによく考えることがあります。簡単に言うと 2 つあります。1 つは女性の社会進出を促し、一億総活躍社会を実現するための待機児童対策を含めた「量の拡大」。もう 1 つは、ヘックマンレポートや OECD のスターティング・ストロング（人生の始まりこそ力強く）でもさかんに叫ばれているように就学前の幼児教育の「質の向上」です。数を増やすという量の拡大に比べ、質の向上は捉えにくいものです。そもそも幼児教育の質とはどのように捉えればよいのでしょうか。わかりやすくは 3 つの質のとらえ方があります。「構造(Structure)・過程(Process)・成果(Outcome)」です。中でも過程(Process)に注目する動きが大きくなってきています。環境を通しての遊びの中で、やりたいことを見つけ、一緒にやりたい友達を見つけ、少々のことではめげずに試行錯誤を繰り返していくことをいかに学びとして捉えるかということが大事になってきています。読み書き計算（認知的能力）を就学前にいくらししたところですぐに追いつかれてしまいます。それよりも「ようちえんに行くのが楽しい」「明日は何して遊ぼう」と毎日充実した遊びの中で育

まれる『非認知的能力（目標や意欲、興味・関心を持ち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢のこと）』が、就学前の育ちとして大事だということがわかってきました。社会に出てからも成績がいいだけではうまく仕事できません。仲間と共に一緒になってめげずに課題に向かい続けることが社会からも求められています。その力が小学校以降ではあまり育たず、就学前の遊びの中で培われると言われていることを考えると、ようちえん時代をどのように過ごすのかを見直す必要も出てくるのではないのでしょうか。

これだけ大きな前振りがあるにもかかわらず、前年度に各委員会へと課題を申し送り、今年度は後方支援に徹しますとしていたことが、大きな足踏みとなってしまいました。深く反省すると共に、各委員会でも直面する課題に向き合っているからこそ出番も少なかったのだとも思っています。

次年度以降は、認定こども園委員会として少しでも質の向上に寄与できるように、現場の保育実践力を向上させるべく、特に乳児期に特化した研修を開催したいと考えております。また、委員会の開催方法を見直すことで、設置者園長向けの研修会を兼ねられないかと検討中です。

藍綬褒章を受けて



押野 典生

薩摩川内市
学校法人押野学園
認定こども園
せんだい幼稚園
理事長・園長

昨年末、有難いことに、お会いする方々より「おめでとうございます」と受章のお祝いの言葉をたくさんいただきました。普段、音信が少ない方からも、その声が届きました。「マスコミ等を通じて知りました」と聞き、あらためてその影響力に驚きました。

どのような基準で選考されているのかは分かりませんが、「この仕事に長く携わってきただけなのに…」と恐縮な思いです。

ただ、文部科学省の伝達式、皇居での拝謁に参列させていただき、貴重な経験や出会いがありました。というのも、リオオリンピックの金メダリストの面々と同じ会場での受章となったのです。テレビの画面で見る選手達が目の前に、しかも同席する機会はありません。ミーハーな気分になってサインをもらえそうな雰囲気ではありませんでしたが、四年に一度開催されるこの年に、しかも秋の受賞というダブルな機会はそうめったにありません。緊張しながらも、その場を楽しませていただきました。

これからどのような人生になるのかわかりませんが、子どもたちを通じたご縁が、多くの方々の出逢いに結びついたことは確かです。

もう一度気持ちをリセットして、自分を見つめる機会にしたいと思っています。

鹿児島県知事表彰

鹿児島県私立学校教育功労者表彰を受けて



メニッヒ・テヨドル

熊本・大島
学校法人カトリック学園
亀津カトリック幼稚園
前園長

昨年、第55回県私立幼稚園教職員研修大会大隅大会にて教育功労者表彰（県知事賞）を戴きましたことを、県知事を始め、県の担当者、私立幼稚園協会の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

受賞当日の謝辞はごく短いものでしたので、改めて上記の方々の他に、約50年間勤めていた各園の子ども達、保護者、教職員、また学園の役員、同僚等の皆様にも心より感謝申し上げます。

園長、副園長として転々と巡った園で、毎日子ども達に接し、共に遊び、走り回り、運動会や鼓笛隊、演奏、持久走等の練習で力いっぱい頑張りがちながら、どんどん成長して行く園児達を相手に、自分も歳を忘れて、一緒に頑張る元気が出たものです。また、子どもに話す時や、事務仕事の傍らに教材、道具棚、楽器、遊具等を工夫したりして、子ども達に喜んでもらったのも、自分の喜び、励ましになりました。大勢のお友だち、ありがとうございました。

尚、園の方針は園長が決めると言われるますが、その方針を現場で具体的に実践するのは、まず先生、職員に違いありません。保育、行事等の計画を立てる時は勿論、新しい試みや方針に挑戦する際は特に、主任、教職員と細かく話し、貴重な意見や提案、注意を戴き、互いに信用しあいながら共に子どもの保育、園の発展に惜しみなく尽くして頂いた事を一生忘れられません。この度の表彰は、先生方の奉仕、協力の実りと信じ、感謝を込めて、代表として頂戴いたしました。長い間、本当にありがとうございました。

全日本私立幼稚園幼児教育 研究機構優秀教員表彰を受けて



久保田 隆子

鹿児島市
学校法人吉井学園
認定こども園
錦ヶ丘幼稚園

このたび「全日本私立幼稚園幼児教育研究機構優秀教員」ということで表彰をしていただきました。最初にこのお話をいただいたときは、「自分の好きな道を歩いてきただけなのに私なんか表彰されているのだろうか」と気恥ずかしい思いがしました。と同時に、大好きな『幼稚園の先生』という仕事を続けてこられたのは、失敗ばかりの私を「先生！」と慕ってくれた子どもたち、温かく見守ってくださった保護者の皆様、根気強くご指導くださった先輩の先生方、どんな時も明るく助けてくれた仲間のおかげだということを今さらながら感じることでした。

今後も、幼稚園が子どもたちにとって楽しく過ごせる場であることはもちろん、保護者にとってもほっとできる場となるようにしていきたいと思っています。そのために、今まで以上に自己研鑽に努めてまいります。

最後に今回の受賞に携わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。
ありがとうございました。

鹿児島市支部

鹿児島市支部では、総務・政策・経営研究・教育研究・広報の5常置委員会を設け、それぞれの委員会が年間計画を立案し実践した。

年度初めの総会において、下記のような重点課題を承認していただき、各委員会が計画的に取り組み成果を上げた。

1 重点課題

- (1) 各補助金の増額要望と「新制度移行」についての合議。

※ 3歳児保育運営費補助の増額と2歳児補助の継続

※ 子ども未来部保育幼稚園課との連携

- (2) 幼稚園教育要領の趣旨を生かした保育研究、並びに教育課程に係る教育時間終了後に行う教育活動の充実

※ 「0歳児～2歳児の保育」について研究する【研修会の企画】

- (3) 教員の資質向上を目指す各種研修会への参加促進

※ 各ブロックの研修活動の充実。公私立幼稚園保育研究会への参加。

- (4) 自己評価及び学校関係者評価の実施と公表の充実

- (5) 幼稚園・認定こども園の学びを、社会に認知してもらうための企画充実

※ 「リビングかごしま新聞」との連携（広告の在り方）

- (6) 円滑な接続を目指した幼小連携の充実。小学校長会との連携・充実

- (7) 個々に応じた発達支援の在り方と個別の指導計画・支援計画の作成

- (8) 幼児の健やかな育ちのために、保健・衛生・食育の充実

- (9) 安心・安全で楽しい幼稚園の環境づくりへの取り組み強化

2 総務委員会

- ①「ホームページだより」の発行 ②「テレホン相談サービス」の継続 ③「アプローチカリキュラム作成の手引き」の活用

3 政策委員会

- ①市当局への助成等の要望と子ども未来部との連携 ②加盟園全園の一致協力した活動の取組みとPTA・振興議員との連携

4 経営研究委員会

- ①財政基盤確立への方策（収入増加の取組み・保育料の適正化・補助金の増額・収益事業の拡大） ②理事長・園長研修会にて新制度の理解の深化を図った。（8月26日）講師 今村 剛志氏（文部科学省幼児教育課課長補佐）「新制度理解のための研修会」

5 教育研究委員会

- ①教育課程の編成の充実 ②教師の資質向上と指導力向上のための研修の充実 ③研修会の参加促進 ④理事長・園長の研修の推進・充実 ⑤主幹教諭及び主任教諭の資質向上（主任研修会の充実）

6 広報委員会

- ①「かごしま市私立幼稚園・認定こども園だより」の発行 ②新入園児募集活動の広報 ③第13回「かごしま市私立幼稚園・認定こども園フェスタ」9月

11日（土）の実施

（支部長 富永 宏）

南薩支部

南薩支部は、指宿市、南九州市、南さつま市、枕崎市の12園が加盟しており、地域の幼児教育推進、私立幼稚園の振興のため、そして子どもたちの大切な幼児期に関わりを持つ責任の重さと大切さを胸に子どもたちの将来を見据えて一緒に成長する教師・幼稚園でありたいと日々保育を行っております。

支部の現状として少子化・地域の過疎化の影響を受け、私立幼稚園は厳しい状況にあります。幼児教育・保育制度が大きく変わろうとしている今、支部内の先生方と情報や問題点を共有し、幼児教育の重要性を内外に訴えていくことも大切なことです。しかし現代の幼児教育・保育制度が変わっても、時代が変わっても変わらない大切なものがあることを、私たちは伝えていきたいと思っております。

平成28年度南薩支部の活動としては、8月6日（土）の夏期研修会において認定こども園加世田聖母幼稚園の江籠忠好園長先生を講師に迎え、『からだを動かす遊び』について講演と実技指導をいただきました。講演では年齢の違いによる運動能力の違いや、運動遊びの意義に対する理解を深めました。実技では、実際にボールなどを使った運動遊びを指導していただきました。遊びを実際に体験することによって、子どもたちの成長によいだけでなく、お友だちと協力し合うことによって心の成長にもよいことが確認できました。

2月18日（土）の冬季研修会では鹿児島純心女子大学国際人間学部こども学科の有村玲香先生を講師に迎え、『2歳児の育ちや保育』について講義いただきます。保育制度が変わり2歳児の就園、また認定こども園の認定にともない乳幼児の受け入れが増えてきています。昨年に引き続き乳幼児を預る者として知っておかなければならない基礎的なこと、特徴などについて学びます。今まで深く関わることのなかった年齢の子どもたちと共に過ごすには、謙虚な気持ちで学びを深めなければなりません。また、0, 1, 2歳児が園にいたことが、3歳以上の子どもたちの育ちにもよい影響を与えてくれます。よい学びとなることでしょう。

最後になりましたが、今年度教職員研修大会で問題提起をしていただいたコスモス幼稚園の先生方には大変なご苦労をしていただきました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。（支部長 坂田 茂）

西薩支部

西薩支部は、北は出水郡長島町から日置市までの南北に細長い支部で18園が加盟しています。

支部の活動としては、年4回行われる教育研究委員会で、夏の西薩支部教職員研修大会の企画と準備をし、支部における課題などを協議しました。昨年は、8月

支部



に開催する夏期教職員研修会が、台風 25 号のため中止となりましたが、今年度は鹿児島純心女子大学にて夏期教職員研修会を行うことができました。

支部 PTA の活動として 11 月 21 日（月）に西薩ママさんバレーボール大会を薩摩川内市のサンアリーナせんだいに開催し、楽しく親睦をはかることができました。

1 月 22 日（日）には、神村学園初等部講堂にて西薩うたう会が開催されました。参加園は少なかったですが、素晴らしい歌声が講堂内に広がり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

新しい制度がスタートして 2 年目となり、同じ支部の中に違った形態の園が存在することや、同じ園に認定の違う子どもたちが混在することに対する違和感が薄れてきたように思えます。このような環境の中、連携をとりすべての子どもの最善の利益のために、また、素晴らしい幼児教育の提供のために努力していきたいと思えます。（支部長 島谷 精利）

始良・伊佐支部

始良伊佐支部では 19 の幼稚園の中で、11 園が認定

だより



こども園となっており、幼稚園と保育所の役割を担っています。特に当地区の霧島市におきましては、3 年前より幼稚園と保育の合同園長会を開催して親睦を深めています。この合同園長会には、毎回霧島市長をはじめ市役所職員も数名出席して盛大に行っていますが、本年度は始良伊佐支部の恒例の訪問研修が霧島市の「認定こども園かたれあ」と「隼人ひまわりこども園」で開催され、幼稚園職員に加え

保育園職員も参加し、充実した研修を行うことができました。霧島市保育協議会からも素晴らしい評価をいただきました。

学校教育と児童福祉法は、子どもを預かる施設として表裏一体のものであり、また教育の機会均等の面からも認定こども園の役割は重要と考える次第です。新しい制度の下で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変貌しつつあり、私どもの役割も重要であることを痛感しています。

認定こども園への移行を希望する幼稚園が増えつつありますが、保育協議会との交流を一層深め、幼稚園は 0 歳児から 2 歳児の保育の在り方を保育協議会から学び、また保育協議会も 3 歳以上の教育保育の内容を深め、幼稚園・保育園双方の職員の資質向上に努めたいと思えます。

従来、幼稚園と保育園は背中合わせの状況にありましたが、親しく交流する機会ができましたことを嬉しく思うと共に、このような活動が、県下全域に拡大できればと願う次第です。（支部長 鬼塚 俊郎）

大隅支部

大隅支部では、3 月 1 日の支部総会で今年度の活動

をはじめました。「大隅私幼教師研修大会」を 6 月 4 日、鹿屋幼稚園で開催。午前中は県大会での助言も依頼した池田哲之先生（鹿児島女子短期大学教授）をお迎えして、「子どもたちのやさしさや思いやりの育ちを考える」と題して講演をいただき、午後からの分科会では問題提起園であるカトリック垂水幼稚園を中心に、それぞれに持ち寄った研修レポートを基に熱心な討議が行われました（出席者 120 名）。

平成 28 年度は、県教職員研修大会が大隅地区で開催されるということで 12 園の公開保育、分科会場園をお引き受けし、全体会も大隅一丸となっておもてなしさせて頂きました。

地区の研修では「大隅主任研修会」は奇数月、年 6 回開催。大隅地区研修会テーマは勿論のこと様々なテーマに基づき学びを深めました。1 月には信愛こどもの園で公開保育を行い、認定こども園における 0～2 歳児の保育、3～5 歳児の幼児教育の在り方等について学びました。

PTA では 11 月 8 日に大隅私幼 PTA 連合会研修大会を鹿屋市で開催。鎌田利香氏（R プラナヨガ講師）を講師にお招きして「心も体もフレッシュヨガ」と題してお話いただきました。PTA 親睦バレーボール大会は 1 月 28 日に串良平和アリーナで開催され、50 チームが参加。一日かけて熱くも楽しいリクレーションとなりました。四市三町に広がる大隅支部は 21 園と広範囲の大所帯ですが、全園協力的で心から感謝しています。（支部長 吉井 健）

熊毛・大島支部

本支部は種子島 6 園、屋久島 3 園、徳之島 2 園で構成されていますが、離島ということで全園参加の研修や交流活動は困難です。したがって、種子・屋久地区と徳之島地区それぞれで教職員研修や園長研修等を積極的に行っております。

種子・屋久地区では、例年 6 月及び 2 月に地区の教師研修会を実施しています。各園持ち回りで会場園、司会園、発表園、記録園を担当し、県協会 of 教育研究委員会において示された研究テーマを中心に、様々な内容で研修をしています。本年度は 6 月 11 日に屋久島町のゆかり幼稚園で野間幼稚園による 1 年目の分科会発表内容について研修しました。また、1 月 14 日には南種子町の中央認定こども園で、次年度 1 年目のテーマ研究を各園の事例を持ち寄って、きりすところこども園の研究発表概要を基に意見交換を行いました。その後小グループに分かれて「感染症対策」について各園の取り組みや課題を基に意見交換をしました。このように発表園のみならず、発表テーマを全園で取り組み、各々事例を出し合って意見交換をする形式を取っています。その上で、発表園の研究内容を高めていけるよう各園で園内研修で研究を重ねているところです。このような研修を 2 年に 1 回は宿泊研修にし、教師間の交流・慰安として楽しんでおります。また、1 年に 1 回持ち回りで公開研究保育を実施しております。本年度は 2 月 25 日に屋久島町のゆかり幼稚園で行われました。

新制度開始 2 年目が過ぎ、各園ともかなり深刻な人材不足に陥り、悩ましい状況です。地区全体で取り組む課題として、機会あるごとに知恵を出し合いながら、地域に根ざした幼児教育の質の向上を目指していきたいと思えます。（地区理事 園師 和俊）

平成 29 年度の主な行事（予定） ＝ 2017 ＝

行 事 名	期 日	場 所	行 事 名	期 日	場 所
第 1 回新規採用教員研修会	4 / 4 (火)	マリンパレス か ご し ま	第 33 回九州地区教師研修大会福岡大会 免許状更新講習 (2 日目分科会)	7 / 31 (月) 8 / 1 (火)	福 岡 県
県私幼協会・県 P T A 監事監査	4 / 10 (月)	協会事務局	第 18 回乳幼児教育・保育実践講座 ※免許状更新講習 (1 日目)	8 / 2 (水) 8 / 3 (木)	マリンパレス か ご し ま
一般社団法人私幼協会理事会	4 / 20 (木)	協会事務局	教員採用候補者試験	未 定	未 定
一般社団法人退職金基金社団 監事監査	4 / 27 (木)	協会事務局	第 8 回幼児教育実践学会	8 / 18 (金) 8 / 19 (土)	北 海 道
一般社団法人退職金基金社団理事会	4 / 27 (木)	協会事務局	第 7 回九州地区自治体・役員交流研修会 鹿児島大会	8 / 24 (木) 8 / 25 (金)	サンロイヤル ホ テ ル
県 P T A 指導者研修会	5 / 9 (火)	サンロイヤル ホ テ ル	平成 29 年度 設置者・園長研究協議会 (県私幼)	9 / 27 (水) 9 / 28 (木)	西 薩 支 部
一般社団法人県私幼協会総会 一般社団法人退職金基金社団総会	5 / 16 (火)	マリンパレス か ご し ま	第 32 回 九州地区 P T A 指導者研修会	10 / 3 (火)	沖 縄 県
県 P T A 連合会総会	5 / 26 (金)	黎明館講堂	全日私幼連設置者・園長 全国研修大会	10 / 16 (月) 10 / 17 (火)	大 分 県
九州地区私立幼稚園 退職金団体代表者会議	6 / 1 (木) 6 / 2 (金)	沖 縄 県	平成 29 年度 保育教諭等研修会 (もし開催するとなれば)	11 / 7 (火) 11 / 8 (水)	マリンパレス か ご し ま
県主任研修会	6 / 14 (水)	マリンパレス か ご し ま	九州地区免許状更新講習講座	12 / 2 (土) 12 / 3 (日)	福岡必須 12 時間 * 実施予定です
全国私立幼稚園退職金団体協議 会総会・研修会	6 / 15 (木) 6 / 16 (金)	神戸ポートピアホテル (兵 庫 県)	第 2 回新規採用教員研修会	12 / 26 (火)	マリンパレス か ご し ま
第 33 回九州地区設置者・園長研修大会 (熊本大会)	6 / 29 (木) 6 / 30 (金)	熊 本 県	第 21 回 幼稚園等教育改善研究会	1 / 26 (金) 1 / 27 (土)	大 隅 地 区
平成 29 年度教職員研修大会 鹿児島大会	7 / 21 (金) 7 / 22 (土)	鹿児島市民 文化ホール			

平成 29 年度

第 56 回 鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会 鹿児島大会 (案)

大会テーマ「人生のスタートにこそ良質な教育を」 (2 年次)
～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

〔日 程〕

第 1 日目 7 月 21 日 (金) 【全体会：鹿児島市民文化ホール】

9:20	10:20	10:40	10:50	11:40	12:50	13:40	14:00	15:30	15:45
受付 (ポスター発表)	特別 出演	開会式 準 備	開会式	昼 食 (ポスター発表)	講 習	休息 (準備)	講 演	開会式	解散

第 2 日目 7 月 22 日 (土) 【分科会：鹿児島市支部 12 の幼稚園等】

9:30	10:00	11:30	11:45	12:45	15:35	15:45
受付	公開保育 (保育参観・会場園見学)	開会 行事	昼食	問題提起・分科会 (中間に休息・後半に指導助言)	開会行事 諸連絡	解散

わっくぱらん

今年度も「ようちえんって楽しい」、「鹿私幼だより」の発行を大きな仕事として取り組んでまいりましたが、いかがだったでしょうか。原稿を快く執筆いただいた先生方、誠にありがとうございました。

我々が勤務する私立幼稚園も、「子ども・子育て支援新制度」が始まって、これまでの教育保育の内容に子どもの受け入れ時間、そして働き方などと、大きく変化を求められたこの 2 年だったと思います。これからの方向性を決定する設置者園長先生方の不安はもとより、日々子どもたちを前にして仕事に当たられた現場の先生方には、想像以上に大きな不安と負担を強いたのかもしれない。

毎日のように耳にする「待機児童 (解消)」のフレーズは、都市部だけの問題ではありません。これを幼稚園で働く我々の立場から見ると、待機児童対策イコール幼稚園教諭・保育士不足、各園における“同僚”確保に直結する問題となってきました。特にそれは地方に行けば行くほど喫緊の問題です。

子どもの安心、親の安心、そこで働く先生方の安心を高め、不安・負担を軽減するために、来年度の調査広報委員会は、これまでの広報活動に加えて、人材確保のための調査・広報活動も大きな柱として、他の委員会と連携をとって進めて参る計画です。

オール鹿児島県私立幼稚園協会できざまな知恵を出し合い、先生方のつながりも各園の採用状況にうまくリンクさせて、それぞれの幼稚園に新しい先生・経験豊富な先生を一人でも多く迎えられよう努力したいと思っています。

このことにより幼稚園現場にゆとりをもたらし、幼稚園の質をさらに高められたらと願っています。

今年度の調査広報活動へのご協力ありがとうございました。来年度もさらなるご協力とご支援をよろしくお願い致します。

調査広報委員長 武 祥三